

令和4年 6月	豊川放水路 愛護モニター報告	モニター区間	放水路:左右岸 0.0km~6.6km 管轄出張所:豊川出張所
実施日	令和 4年 6月 4日	実施区間	放水路:柑子橋付近
<p>6月4日に行明橋から柑子橋を 眺めています。先月26日に大雨の後の様子を見に来てから10日あまり。放水路は すっかり平時の様相です。</p> <p>本日は 豊橋市文化財センター主催行事「近代化遺産めぐり」に参加し、中部産業遺産研究会</p>			
<p>副会長の天野武弘さんの 案内で、バスを使って世界灌漑遺産の松原用水を 牟呂松原頭首工から牟呂用水最終放水樋管まで巡りました。</p>			
<p>その途中 大村町の八所神社によりました。鳥居の 前にある 由来の書いてある立札には701年に創建 されるが、1539年に大津波により 消失し、のち 1551年に再建されると あります。調べると大津波 とは 高潮のことだとありました。</p>			
<p>今回 450年前からある松原用水を巡ってみて、豊川という大きな 川の周りに 住む人々が 生きていくためにたび重なる苦難を乗り 越えてきた様を 知りました。</p> <p>田畑に引く水を確保するために 豊川の中に堰をつくっても 大雨 のために その堰が 壊れる。しかし、あきらめることなくまたつくる。 現在の私たちには 想像をこえる話です。この八所神社も堰ができ あがらないことを憂い、身を捧げた八人の庄屋の魂を祀ったところ だそうです。</p>			
<p>八所神社がある 大村町は現在の豊川と豊川放水路の間にあり、 まさに 松原用水の受益地ですが 私にとって 放水路があつて 大雨が降っても翌日には道路が 乾いている様しか知りません。しかし 放水路ができる前の 大村町は 今とぜんぜん違うだろうと 思います。今月も 先人の苦勞に思いをはせ 今の暮らしが 大勢の人々によって 守られている ことを 再確認しました。</p>			
		河川愛護モニター	